

## 第2回 徳島市まちづくり総合ビジョン策定市民会議 会議録（要旨）

### 1 開会

### 2 議題

（会長）

本日もよろしくお願ひいたします。まず、事務局から説明をお願いします。

（事務局）

<議題1～議題2まで資料に基づき説明>

（会長）

では意見を伺っていききたい。どなたからでもお願ひしたい。

（委員）

重点事業として様々なことが企画されているが、私自身施策17の避難支援マップを市と協力して進めている中で、思っていることをお伝えしたい。

各施策で重点事業が挙げられているが、事業は一つの施策の中で完結するものではなく、例えば避難支援マップであれば「施策8地域福祉」の災害ボランティアコーディネーターや「施策16」の新たな地域コミュニティの創造、あるいは「施策28」の危険ブロックの対策といったところとも関連する。施策同士の協力体制のようなものをしっかりと練って、一つの事業が2倍3倍と効果を発揮できるような計画づくりを行ってほしい。

（委員）

まず認定こども園について、徳島市の財政が厳しい中、条件の整った地区については、現在の幼稚園の施設を改修し公立の認定こども園として整備してもらいたい。私立の認定こども園では、地域社会との連携が希薄になってしまうと思う。

2点目に、小中学校の空き教室が非常に増えている。これを利用して留守家庭の低学年の自習の場所として利用すべきである。

3点目、私の地区では、中学校で防災教育を始め、地域の人たちと共に活動を行った結果、学生が防災関係の卒業論文を書く際には地域の防災関係者やコミュニティ協議会に毎年相談に来るようになった。昨年は2人の学生が来て、2人とも地域の企業へ就職した。そのような地域とのつながりというのが大切だと思っている。ゆとりある教育が国の方針で廃止になった。そこでクラブ活動のような形でもよいので、防災だけでなく地場産業の見学や、地域の歴史や史跡などを学ぶことにより地区に対する愛着が増し、児童・生徒に大きな影響を与えると思う。

(委員)

基本的な考え方は良いとして評価したいが、補足として前回の会議とも重なる部分があるが、生産年齢人口が減少していることの対策について意見を述べる。

人口流入を増やすか、若者を留めるかということが求められると同時に、潜在的な労働力をどう掘り起こすかということ、つまり社会から排除されている人たち、参画していない人たちの社会参加、納税者になってもらうことが求められており、就労支援事業も積極的に展開していく必要がある。

非常に横断的な議論になるが、「施策32：働く環境づくりの推進」の取組方針で「女性や若者、高齢者の活躍促進」が挙げられているが、それ以外に「施策6：社会保障の充実」、「施策9：高齢福祉の充実」、「施策10：障害者福祉の充実」などにおいても自立という点で就労支援が非常に重要な課題だと思う。定着させる意味でも、例えば、体験就労や職場実習などを通じて定着を図っていくことが重要である。ぜひそういった課題を盛り込んでほしい。

関連して、「施策11：人権尊重・多文化共生社会の実現」ということで、在住外国人の増加に対応する施策が提起されており、その中で相談事業を挙げている。相談事業は重要なことだが、徳島市を中心として徳島県には定住・永住の在留資格をもった外国人が2,000人以上いる。並行して徳島市民と在留外国人との交流をいかに深めるかということも重要である。やはり日本語教育を含めた就労支援ということも課題としてはあるが、共生社会という意味で重要であるのは互いを知るということだと思う。去年の8月に県下の県民800人、経営者200人、在住外国人250人にアンケートを行った結果、在住外国人の8割が徳島に引き続き住みたいと答えていた。働く場所が無いという意見も多かったが、お互いの交流をしたいという意向を強く感じる結果だった。県民へのアンケートでも交流の度合いが強いほど理解の度合いが深まっているという結果になっており、交流を深めるという課題が重要であるということだと思う。

また人権の尊重という点では「施策11：人権尊重・多文化共生社会の実現」が該当する施策だと思うが、LGBTQの対応について記載がない。こちらについても記載が必要だと思う。

「施策16：地域自治・協働の推進」に記載のある協働支援については、昨年12月に全党全会派の賛同を得て国会で「労働者協同組合法」が成立した。これは組合員が出資し、それぞれの意見を反映して組合の事業が行われ、組合員自らが事業に従事することを基本原理としており、2年間の周知期間を経て施行されることになっている。これは地域の活性化や持続可能な地域社会を作るために必要だと思う。この計画期間中にスタートすることを思えば、積極的に推進することが求められるのではないかな。

蛇足として、保育士の流出を防ぐために様々な施策を推進していることを評価したいと思うが、全国水準からみて保育士の給与水準が87%ほどと少し低いので、給与水準の引き上げなど魅力的な職場にすることが保育士の確保に繋がっていくのではないかと考えている。

(会長)

基本目標に「誰一人取り残さない」という理念があり、その中で外国人の就労支援についても実施計画で取り組んでもらえたらと私も考えている。保育士についても、社会全体で考えていかなければいけない問題である。市長も積極的に取り組んでいるので期待している。

(委員)

ご意見にあったLGBTQの記述が無いので対応をとという部分について共感する。これは学校教育でも大きな問題で、調査によって数字は違うが、5%~15%のLGBTQのお子さんがいるということがわかっており、10人いたら1人はいるという数字になっている。その中で、例えば制服でも、女子にはスカートを強制している。その理由が、調査すると6人しかスラックス希望者がいないからという理由で許可されていなかった。多数決で棄却するのではなく、一人でもいたら採用すべきという、少数派への配慮をお願いしたい。

計画案について3点述べたい。

1点目、分野横断的重点テーマについて。私は政策というのは重点が大事だと考えており、満遍なくというよりは、その中で何を重点にするのかという重要な点が明快に示されている。この部分についてはもっと評価されるべきなので、同じく示されており評価できる「施策体系及びSDGsとの関係」のすぐ後ろの位置で示した方が良い。SDGsは分野横断的に見せようという趣旨で書いているので、その関連の場所に移動させた方が、徳島市の取組が進んでいると思ってもらえる。

2点目、「政策1 子どもたちが健やかに育ち、生きる力を育むまちづくり」について、首相官邸の教育再生実行会議の初等中等ワーキングでも大臣たちと週1、2回ペースで議論して同教育改革すべきか議論をしているが、この政策1は20年前と同じではないかと思うような一般的な書き方がされていてもったいないと思う。新型コロナ等で想定外の状況に対応できるような子どもたちを育てようとしているときに、何が必要なのかをもっとここに書かれてはどうかと思う。下から5行目に“教員の指導力向上”とあるが、どういう指導力かが書かれていない。指示待ちでは変化の激しい社会についていけないため、主体的に行動する子どもを育てるためということで、“教員の指導力向上”の前に“主体的・対話的で深い学びを実現する”と記載して具体化されるとどうかと思う。

基本目標との関連から“多様な子供たちを誰一人取り残すことのない公正に個別最適化された学び”とあるが、“公正に”は文部科学省がこの文言から削除しているので、不要だと思われる。また、“個別最適化された学び”だけでは私はダメだと思っていて、バラバラではなく、大変な世の中では力を合わせて、みんなの力で解決するということが重要であると考えている。様々な意見がある中で、練り合うことで納得感を生み出すという基本目標を実現する言葉が無いので、そのために“個別最適化された学び”と共に、“協同的な学び”という言葉は是非入れてもらいたい。

3点目、より具体的にしたいということで、「施策2：学校教育の充実」の「本市の現状と課題」の最後に、“学力だけでなく、課題解決能力”という文言があるが、“学力だけでなく”と書かれていることが大きな問題で、ここでは“学力”を“知識・理解”のニュアンスで用いているが、既に学力観として非常に古い表現である。課題解決能力やコミュニケーション能力を含めて“学力”であるため、ここでは“知識・理解だけでなく”と表現すべきである。この部分については非常に不適切だと思う。また“課題解決能力”というのも古い表現で、現在は指示待ちでなく自ら問題を発見して解決していくことが必要であるため、明確に“問題発見・解決能力”と変えるべきだと思う。新学習指導要領もそのように変わっている。さらにもう1か所、「取組方針①~⑦」に加え、⑧として「地域に開かれたカリキュラムづくり」という項目を加えてもらいたい。学校が学校だけで動くのではなく、学校と地域がパートナーとして連携・協働しながら学びをつくっていくということで、文部科学省の方針として地域に開かれたカリキュラムづくりが示されて

いる。地域の協力を活用して、一緒に教育がどうあるべきか、ということも考えながらカリキュラムを作っていけるのではないかと思う。以上の3点について、「基本目標3」と「基本目標4」に対応する表現がここに無かったので、こういう風に入れてはどうかという考えを述べた。

また、「取組方針②義務教育の充実」の文中に“郷土を愛し未来社会に夢を描ける”という言葉があり、これを高く評価しているが、地域を愛するだけではだめだということが過去30年の中で明らかになった。

例えば、北海道では雪や寒さが嫌いな大人たちがいるが、それを30年計画で雪や寒さが宝だと変えていった。寒いから低農薬栽培ができる、寒暖差が大きいから糖度の高い農作物がつかれる、例えば徳島では洪水が多かったから藍染めができた。など、逆転の発想のような、創造的思考を生かして社会を改善するという内容を入れていただきたい。“夢を描いて、創造的に社会を改善しようとする児童生徒の育成を”とするといいと思う。また社会科の副読本の中身もそれに沿った改善が具体的にできる。

(会長)

どこまで修正が可能かなど、事務局とも協議して検討する。その際にはまた意見をお聞きすると思うので、よろしくお願ひしたい。

(委員)

「施策35：観光・交流の促進」について、「成果指標」の中に「観光消費額の上昇」という基準を入れるべき。

そもそも観光施策の目的は徳島市の経済施策であり、人口減少に伴う「地域経済縮小スパイラル」対策として外貨を稼ぐために、域外からの消費をいかに呼び込むということが主務だと思う。そのためには様々な産業との連携が必要である。例えば「施策29：農林水産業の振興」であれば、市内来訪者に向けた産直市の開催による売り上げの拡充や、農産品の旬の時期に、飲食店とのタイアップによる旬の食材のPRを行うことで、来訪者にも魅力的な地産地消の推進などにつながってくる。「施策36：文化財の保存と活用」であれば、例えば、愛媛県の大洲市ではお城と昔の建物を使った歴史体験などの町おこしを行っているが、同様に歴史的な建物を利活用することで、新たな観光コンテンツとして地域経済への寄与につながると思う。

(委員)

「施策5：健康づくりの推進」に盛り込んでくれたがん検診について、徳島の検診受診率は全国最低レベルである。

がん検診で見つかるがんは、限局<sup>1</sup>しているものが多く、限局がんの生存率は9割ほどである。検診率の低さはやはり啓発が足りないのだと健診センターでも思っているが、例えば大腸がんの検診対象者は徳島市で15,6万人いる。「成果指標」について、がん検診の目標値が%ではなく人数にしているのは変わっているように思うが、この人数が目標では低すぎる。予算のこともあろうと思うが、この倍は実現可能だと思う。予算的な事情でこの数値なのであれば、せめて今よりも高くする、%に戻すなどの見直しをしていただきたい。

---

<sup>1</sup> “がん”が発生した臓器のみに浸潤し、他の臓器へ転移していないこと

「施策1：子ども・子育て支援の充実」についても、徳島市は保育士の確保のためにヒアリングもよくしているため、問題点が保育士の処遇にあるということはよく理解されていると思う。徳島市の正規職員としての保育士の募集にはたくさんの応募が来ていると思うが、定員は少ない。1年だけの臨時職員としての保育士では、採用されても低い処遇、立場でしかいられないことが保育士をやめてしまう大きな理由だと思う。しかし、国の新子育て安心プランでは、保育補助者やパート保育士を活用しようという逆方向のことが書かれている。徳島市ではできるだけ正規職員としての保育士を確保するようにしてほしい。目標に書き込むまでもなくできる事かと思うので、検討していただきたい。

(委員)

「施策1：子ども・子育て支援の充実」重点事業の学童保育事業に関連して、昨年度より国の施策を受けて、徳島県で放課後子ども総合プラン推進委員会が立ち上がっている。

そこでは子供の健全育成のために、従来の学童保育クラブと放課後子ども教室との連携を進めるコミュニティスクールというものを推進している。できれば、徳島市においても学童保育事業の中に「コミュニティスクールの推進」の文言を入れてもらえたらと思う。

もう1点、「施策14：スポーツ・レクリエーションの振興」について、取組方針の全てにおいて、徳島県レクリエーション協会としてもぜひ協力させてもらい、徳島市レクリエーション協会と連携をしっかりと取りつつ進めていければと思っている。

(委員)

私たちは県の子育て世帯つながり支援事業で、子育て世帯が孤立しないよう、オンライン赤ちゃん子育て広場やオンライン転勤族ママの広場という事業を行っている。先日、コロナ禍での産後うつが問題になっているということで、NHKが事業の放送をしてくれた。放送を見た80代の女性から連絡があり、内容としては家族が非常に忙しく、助けのない状態の子育て世帯の孫が産後うつになり追い詰められた状態であるとの連絡だった。すぐに保健センターへ連絡し、保健センターが対応中の家庭であり後日面談する予定であることを確認したが、何かあったらと心配し、NPOとして私たちができることはないかと話し合った。

今後、子育て世代包括支援センターで切れ目のない子育て支援が行われるということだが、今回連絡のあったケースは、徳島市のこんにちは赤ちゃん事業で助産師さんが訪問したすぐ後の僅かな切れ目で起こったことであり、例えば週2回の行政の訪問に加え、子育て経験者のボランティアを活用し、週1回でも訪問の回数を増やして人とのつながりができないか、オンラインを活用して支援の切れ目を補っていくことができないか、と思う。利用者側の環境も必要になるが、オンラインで顔を見て手を振るだけでも、大丈夫かを確認できる繋がりを持つことはできないかと思う。

2点目に、県の事業で小中高大学生を対象に0歳の赤ちゃんと交流する、赤ちゃん授業というのを2度ほどさせてもらった。今年はコロナ過でなくなったが、高校卒業直後や、大学在学中に妊娠される方がいる中で、授業の中で赤ちゃんと1回でも触れ合い、抱っこ、世話をしたことが一つの自信につながっていく。かわいいと思うだけでなく、継続して命を守るために大変な思いをすることをきちんと知っておくうえで、赤ちゃん授業はとても大切だと考えている。様々な自治体が県の事業を利用したり、NPOが自主事業でしたりしている中で、徳島市の学校から応募な

どは無い状態だった。是非教育に取り入れてほしいと思う。子育て支援については「施策1：子ども・子育て支援の充実」の行政支援だけでなく、市民の力、子育て経験者又はシニア世代の力を活用して、早急に取り組まなければいけないと思う。

最後に、「施策29：農林水産業の振興」の林業、森林部分について、私たちは徳島県から委託を受けて、木育広場もっくという施設を運営している。他にも林野庁などと取組を進めている中で、今年の10月に県立木のおもちゃ美術館がオープン予定であるが、徳島市も整備部分だけでなく、赤ちゃんからの木育、親子が木に親しむ、木に学ぶといった取組を考えてもらいたい。

(委員)

産後しばらくどこにも行けない状態で、助産師さんが訪問してくれて大変ありがたかったのを覚えている。この取組は大変重要だと思う。人口減少のグラフを見るとため息が出るが、何をおいても出産・子育てに関する事業は最重要課題だと考えている。

先日、市の芸術祭が開催され、非常にありがたく思っている。コロナ禍であり、例年の半分以下の出演者、客席で開催したが、満席になっており、客席の熱気が伝わってきて、久しぶりに文化に触れて感動した、という言葉をいただいた。

余裕が無ければ文化はできないと言われることがあるが、コロナ禍の中、生活必需でない文化に取り組むことによって、心に余裕をもつことができるということも実感した。

今回の芸術祭については、“公”がするというところに非常に意義があったと考えている。コロナ禍で個人が行っていたことができなくなった中で、市が率先して行うことで勇気づけられたし、感染症対策にしても、目の前で実践してもらうことで後に続けるという力強さを感じさせてもらった。公でなければできないことをまず率先して行ってもらうことの意義を感じたので、これからもお願いしたい。

(委員)

「施策9：高齢者福祉の充実」の取組方針①に、「地域包括ケアシステムの推進」とある。高齢福祉課が主管課となっているために高齢福祉の分野のみの記載となっているが、地域包括ケアシステムは、本来的には地域住民を主体とした地域住民の支えあいであり、世代や属性を超えて住民同士が交流できる場や居場所の確保などが目的とされるものである。実際に地域では様々な地域の困りごとに関する話し合いや活動がなされているため、障害や子どもなどの分野にも記載をしてもらいたい。また、「施策16：地方自治・協働の推進」の重点事業「新たな地域自治協働システム構築事業」など、他施策にも同様の事業があるため、連携して市民に分かりやすい事業にしてほしいと思う。

(委員)

「施策27：多機能な都市空間の創出」について、徳島市の緑化推進事業は主に公園・緑地で考えられているが、市内にはたくさんの街路樹がある。

徳島市の街路樹は安全な歩道幅員の確保や無電柱化が進んでいないこと、落ち葉処理の問題などで紅葉を楽しむ前に伐採されており、徳島の街路樹は街路樹をなしていないということが以前から言われている。落ち葉を誰が掃くかということが一番の問題になっていて、落ち葉で滑ってけがをした場合にだれの責任かという問題も当然あるかと思うが、落ち葉を掃いている中

心部で特に高齢化が進んでいることもあり、近所の方が掃除できなくなっていることが非常に残念なところである。

東京の外苑通りでコロナ禍にもかかわらず人があまりにも密になって問題になったが、街路樹が素敵で紅葉の並木道ができれば、大きなイベントをしなくても人はこんなに集まるのだということを感じた。

市中心部の街路樹をどうにか紅葉の季節もきれいに見られないかと思い、当団体のメンバーを中心として、落ち葉を掃く仲間を集める活動をしようと思っている。天才バカボンのレレレのおじさんのように、楽しく落ち葉を掃く、レレレ仲間をどんどん増やしたい。落ち葉を掃く時間を朝夕とすることで、子どもの登下校の見守り活動もでき、民生委員的な役割もできるのではないかと考えている。街路樹に緑が、紅葉がもどることで豊かなまちにできればよいと考えているので、緑地計画を、公園とオープンスペースだけでなく街路樹も含め、計画に反映してもらいたい。

(委員)

まず1つ目、「施策2：学校教育の充実」について、成果指標に「学校に行くのが楽しいと思う児童生徒の割合」とあるが、コロナ禍によって学校へ行くことが前提ではなくなっている気がする。色々な表現の仕方はあると思うが、表現を変えた方がいいのではないかと。

2つ目、「施策9：高齢者福祉の充実」の重点事業に「認知症サポーター活動促進事業」がある。当事者の家族は自分事として動けるイメージがあるが、地域の方が気づいて行動するということも増えていくのではないかと思う。最近一人暮らしの高齢者が増えている中で、地域の方が当事者に関わっていくということが増えることも考えられるため、地域の方からスタートする支援の形を提示してもらいたい。提示されれば、最近見かける人の様子がおかしい、など気づくパターンもあるかと思う。そういった場合の窓口を設置するか、既にあるのであればもっと周知してもらいたい。気づいたのにどうすればよいかわからないという話が私の耳にも届いている。地域の方々も主体的に動けるような施策を文字にしてもらえればありがたい。

3つ目、子育てや産後うつについて、特にコロナ過での出産を経験されたお母さんたちからは実際に会って相談できる機会が無いことで、一人で抱え込み、辛い思いをしている状態のご両親がいるという声が届いているので、私自身何かできないかと思っている。子育てに関係することは担当課だけの問題ではなく、ワーク・ライフ・バランスなど様々な部署に関わってくることだと思う。施策は違うけれども、同じ課題解決に向けて、様々な施策が連携を取り、効率的に目的に向かって動ける仕組みづくり・体制づくりをベースに施策を進めることで、切れ目がよりなくなっていくのではないかと思う。遠慮や情報共有ができていないしわ寄せが市民に来ていることもあるように思うし、私も感じることもある。

(委員)

将来像に「わくわく実感！水都とくしま」とあるが、実際に私はこれを読んでワクワクしないし、ただ10年後は人口が減っていくのだろうな、と思う。事業に落とし込むので真面目な話になってしまうが、これでは若者は離れて行く。安心安全といった行政としての標準、当たり前の部分はここにあると思うが、これから伸びていくという勢いがここにはないので、どうするのだろうかと感じる。

個別の施策にもこうすればと思うところはあるが、その疑問を感じながら読んでいて、最後に「分野横断的重点テーマ」というのが出てきて、これだと思った。それぞれの施策は粛々と進められると思うが、隣同士で連携で徳島らしさを出すということ。

私は10年前に移住してきた人間だが、私が感じている徳島とこの計画に記載されている施策は違うものであり、1市民として感じている潜在的なモノがここには表れていないように感じる。

もっと徳島をどうにかできる、ということが盛り込めないか。地域で、住民で活動するというイベントなどになりがちであるが、そこに力を持っている人たちがいるのだから、協働や地域連携という言葉になってしまうかもしれないが、エネルギーを感じられる、わくわくする内容にならないかと思う。真面目な会議なので、あまりこういうこともどうかと思ったが、結局は住民がわくわくできるかという部分へ立ち返るのではないかと思う。

また、“水都とくしま”と言っているのに、水に関する施策がない。河川と言えば県だからという理由かもしれないが。唯一「施策34：コンパクトで機能的なまちづくりの推進」の重点事業に「ひょうたん島川の駅ネットワーク構想の推進」があるだけである。徳島市は10年後、確実に川を活かしたまちづくりになっていくと思うが、どこが担当するのかという問題がある。市民や民間企業等と連携するのは当たり前だが、市役所の中でもっともっと連携していく、ということがもう少し感じられるようにしてほしい。

(委員)

私は徳島をこよなく愛していて、徳島のことを自慢して歩いているが、1点だけ、県外の方から厳しく言われることがある。それは公共マナーの低さ、民度の低さ。観光に行ってももう2度と行きたくないと言われる。

防災の担当者と相談していると、普段はお接待文化もあって、とてもやさしい良い人たちであるのに、“やったもの勝ち”という側面もあり、自分の利益が絡むと自己中心的になるということだった。災害時の避難所運営について、東北のように整然と、お互いに思いやりを持って助け合えるかどうかをいつも心配している。観光においても、徳島空港でも羽田空港の徳島便でも、乗る際には当たり前のように横入りがある。徳島駅で乗車位置に並んでいても横入りがあり、徳島バスの乗り場には整列のラインが無いので、観光客が待っていても横入りがある。予算をかけずに、整列ラインを引く、標語的なポスターなどを貼る、職員が呼びかけるなど、そういったことで日常のモラル、公共マナーが向上すれば、観光客にも喜んでもらえるし、災害時には避難所運営も思いやりの気持ちを持って相互に助け合えるのではないかと思う。共助や思いやりといったものをどこかへ盛り込めるといい。

(会長)

皆さんから色々ご意見いただいたが、最後に副会長からも意見をいただきたい。

(副会長)

まず、事務局においては、短期間での仕上げお疲れ様でした。私からは、資料を確認して、気付いたことを何点か述べさせてもらいたい。

前回の会議で多く意見が出た「施策34：コンパクトで機能的なまちづくりの推進」について、他の施策に比べ、目標や目標値があいまいであると感じる。例えば、成果指標の「新町・内町地



区の住民基本台帳人口の年間増減率」は、実際にいくらの水準を目指すのかわからない。重点事業についても検討や推進など、言葉であいまいな点が多いと思う。せっかく前回多くの意見が出たのに、他の施策のほとんどが数値で示している中、このようになってしまっているのは残念である。この施策は全体的に、もっと完成度を高めてほしい。

それから、全てに繋がってくる部分だが、基本構想の「まちづくりに関する市民意識等」の個人アンケートの中段にある“一方で、何も無いといった意見も散見され、”という部分について。これはよく聞く言葉ではある。自分たちの世代のせいだと思うが、地元の良さや地域を大事にする気持ち、地域を創っていこうという気持ちを育てる教育をできていないということだと思う。Society5.0に対応したICT環境なども必要で、大事な部分であるが、一方で全国均一的な教育とにならないよう、地域との交流や地域を知るだけでなく創り出すような教育も必要であると感じた。大人が徳島のことを好きだとか、こんなところがいいところだとか、地域と交流することで子どもたちが徳島のことを誇りに思い、進学や就職で徳島を出ていっても徳島のことを頭にあり、将来帰ってきたり、徳島を活性化したりという内容も必要であると思う。

この1冊全てが繋がっていると思うが、今回グランドデザインを描くという目標もあったが、この1冊を通して、この10年を「わくわく実感！水都とくしま」という将来像が見えてくるような、そういう計画になることを期待したい。ただ、緻密なところはよくできているが、資料が地味でわくわく感や勢いが無いので、コンセプトが伝わるように、シンボルマークを作って表紙に載せるなど、共感を得られるデザインにしてもらいたい。

(会長)

委員の皆さんからご意見をうかがってきたが、事務局から補足があればお願いしたい。

(事務局)

昨今、それぞれの分野だけでなく、相互に連携する部分が非常に多くなっている。市としても計画へどのように反映するかを検討するとともに、実際の施策の推進において、その点は念頭に置いて施策を進めていきたいと考えている。

個別の取組についても、いただいた意見を踏まえて、実際に計画にどのように書き込むことができるか、また実際に施策を進める中で、どのような形で具現化できるかを検討していきたい。この計画では、全ての事業を載せているわけではなく、重点的な取組を掲載しているが、その中で、こういった事業を示していくかについては、いただいた意見を踏まえて検討させてもらいたい。また、デザイン面についても工夫していきたいと考えている。会長とも相談しながら今後進めていきたい。

(会長)

皆さんご熱心な、建設的なご意見をありがとうございました。

最後に私からも一言だけ、「分野横断的重点テーマ」に「多様な主体との連携・協働の推進」という言葉がある。非常に重要なテーマで、行政の永遠の課題という風に考えている。ただコロナ禍、アフターコロナも含めて、これまでとは違う状況の中での住民参加や協働のあり方などは難しい部分があると思う。そこが色々工夫のしどころでもあるが、また機会があれば皆さんの意見を是非伺いたいと思う。これは感想だが、コロナ禍において、どうなるのだろうかという視点で

なく、私たちは何をすべきか、を考えて対応していかなければいけないと思う。これはこの総合計画の中にもそういった思いが流れていると私は確信している。以上です。

最後に市長から一言いただきたい。

### **3 市長挨拶**

(市長)

お忙しい中ご出席いただきありがとうございます。

本日、時間の都合上、意見いただけなかった委員については申し訳なく思っている。欠席された委員と同様に、また意見を言い足りなかった委員も、後ほど事務局にご意見をいただければと思う。

私が市長になって約9ヵ月が経つが、コロナ禍で実現したいことがままならないといった葛藤を抱えながら市政運営をしている。今回いただいたご意見も非常に共感しながら聞かせていただいた。

「わくわく」が感じられないというご意見については、行政としてある程度堅い計画を作らなければいけない部分がある。

私は、行政とはそもそも地域の皆さんの活動をいかにバックアップしてまちづくりを進めていくかを考えるものだと思っている。皆さんがどんなわくわくすることをやりたいのかを徳島市にぶつけてもらい、皆で徳島市をわくわくするものに変えていければ、10年後の人口減少社会においても、多様な主体が活躍できる、みんながこのまちが好きだと言えるわくわくするまちになっているのではないかと思う。行政に任せていれば大丈夫だという気持ちでいては、そのまちはどんどん衰退していくと思っており、今日は短い時間の中で議論させてもらい、貴重なご意見を頂けて勉強になった。

皆さんと一緒にこのまちを、10年後も、もっと先も含めていいまちに変えていきたいと思っているので、今後ご意見を頂ければと思っている。

### **4 閉会**